

リーマンショックと福島原発事故が警告する日本の進むべき方向 (1)

皆さん初めまして。私は土岐市にある核融合科学研究所の理論（シミュレーション）研究の責任者として1989年から務め、2002年退官しました。核融合と言うのは地上に太陽を人工的に作るのと同じで、核分裂を利用する原子力発電と違って核汚染無しに、ほぼ、無限のエネルギーを生み出す夢のプロジェクトです。

その間名古屋市に住んでいた関係で自分の歯科治療を通じ名古屋市歯科医師会の先生に知り合いになりました。その御縁で名古屋市歯科医師会の創立50周年の会で話をしてくれないかとの相談があり、歯科とは全く無縁の私ですが、ご縁でこのコラムに数回自己紹介を兼ね書かせていただくこととなりました。

現在、4年前のリーマンショック以後世界の経済は行く先に全く光明の見えない状況が続いています。日本では昨年追い打ちをかけるかのごとく東日本大震災が発生し、福島原発の大惨事が併発し、科学技術の危険性を改めて自然が人類に突きつけました。これは事後処理に莫大な費用がかかるという次元の問題ではなく、リーマンショックが突きつけている社会・経済の閉塞性と同根であり、400年続いた西洋合理主義のパラダイムにその根を発しています。今こそ我々日本人が近視眼的利便性・効率性の西洋パラダイムから大転換する知恵を出し、血を流すべき時であるとの警鐘と私は受け止めています。

核融合研究の後、スーパーコンピューターによる地球シミュレーションと最先端科学に携わって来た私自身の方向性の変遷をたどりながらコラムを続けたいと思います。



さとう・てつや 1939年生まれ。京都大学工学部電子工学科卒業、工学博士。東大理学部教授、広島大学教授を経て、1989年より土岐市 核融合科学研究所教授、同理論・シミュレーション研究センター長。2001年より横浜市 地球シミュレータセンター長に就任。2003年、コンピュータワールド表彰プログラム「21世紀の偉業賞」、2004年、東京ファッション協会・日本ファッション協会「東京クリエイション大賞技術賞」、2005年、ICNSP&APPTC'05「ドーソン国際賞」などを受賞。現在、兵庫県立大学シミュレーション科教授